

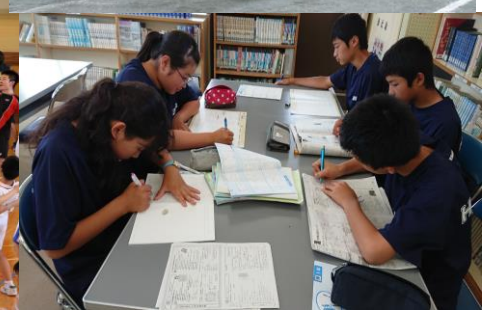
# 平成29年度 学校評価書（前期）

## 学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

## 〈今年度の重点目標〉

良さを認め合いながら、一歩前に出て活動できる生徒の育成  
～「挑戦」「伝統」「誇り」をキーワードとして～



平成29年9月22日  
大館市立北陽中学校

## V 評価

### A 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

## I 組織運営

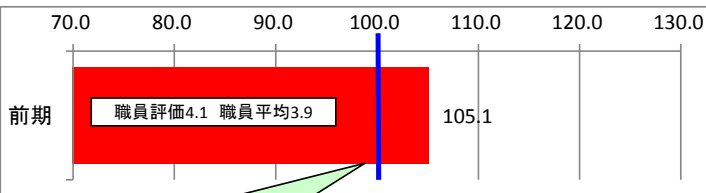
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「挑戦」「伝統」「誇り」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	週一回の学年主任会の開催により、学年間の連携や生徒指導が円滑に機能している。学級担任と副担任との連携した指導を今後も継続してほしい。
校自己改善施策の概要と学	年度		
<p>○開校3年目を迎え、「挑戦」「伝統」、そして「誇り」をキーワードに、これまでの実践をさらに発展させようという気持ちで職員が指導にあたっている。学年主任会は生徒支援担当も含めて週1回実施することで、生徒の情報交換のみならず学年間の連携を図ることができている。今後も学年主任が先を見通して、学年部をリードしていけるように継続していきたい。</p> <p>○事務職員との連携については、予算管理、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われている。スムーズに処理されているが、担当者に任せきりにならず、職員にも事務処理に係る意識をもたせたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針の浸透	定期的な三役会(校長、教頭、教務主任)の開催と効果的な運営	3	
	(2) 学年部組織の強化	学年間の調整を図る「学年主任会」の効果的な運営 副担任制を活用した学年組織の強化		
	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案事項の事前確認による、機を逃さない指導部長提案の支援		
2 諸会議の効果的な運営	(4) 主任層教員間の共通理解の場の確保	定期的な学年主任会と運営委員会の実施	3	
	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保 定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化		
3 事務職員との連携			4	

### [1]に関連するデータ

#### (1) 運営方針の浸透

- 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見通しをもった提案が行われたか？



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

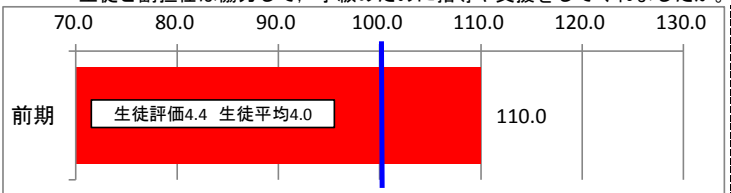
【職員アンケート自由記述】  
○朝・帰りの会などで副担任の先生がしっかり見届けを継続してくださっていることが素晴らしいと思います。北陽中になると当たり前のように感じますが、意外と他校ではできていません。昨年度の小中連携研究会でも、小学校の先生方がとても感心されていました。

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員

【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

#### (2) 学年部組織の強化

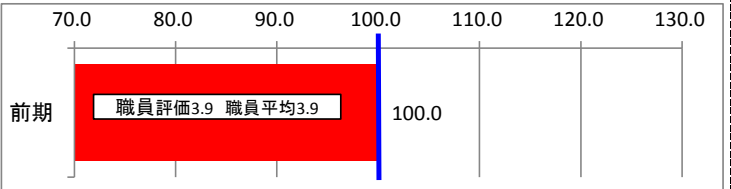
- 生徒と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。



### [2]に関連するデータ

#### (3) 月1回の職員会議運営の工夫

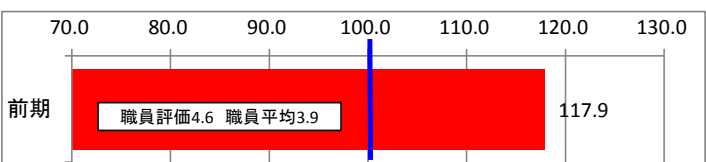
- 職員会議案件が見通しをもって提案されるような働きかけが行われていたか。



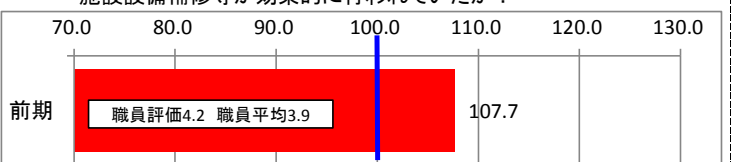
### [3]に関連するデータ

#### (5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

- 事務職員との連携による事務処理負担の軽減がなされていたか？



- 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？





## ア 学校運営の状況

### II 教師の研修

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね 良好	相互の授業参観を実施することにより、北陽中学校の授業スタイルが確立している。「できた」「分かった」を実感させる授業への取組を追究し、ステップアップを図ってほしい。
	年度		
の自己評価の概要と学校の	○全教職員が「チーム北陽」の授業スタイルを実践できるように相互授業参観を実施した。その成果として、50分ものさし、チャイム前学習、意見のつなぎ合い等の基本形は定着が図られてきた。次のステップは、各教科の研究課題に沿った取組を積み重ね、生徒が「できた」「分かった」と実感できる場面を、意図的かつ効果的に設定していくことである。評価や振り返りの在り方を教科の特性を反映させながら追究し、集団の学びを個の力の向上につなげていきたい。 ○全員での研究会を継続し、校外での研修成果を共有しながら、生徒も教師も互いに高め合っていく「チーム北陽」を目指していく。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 授業改善の推進	(6) 学び合い高め合う授業づくり	学習過程に応じた共通実践事項の設定と実践 各教科の研究課題設定と実践 諸検査データの分析と活用	3	
5 研修の実施及び活用	(7) 「チーム北陽」の資質向上を目指した研修の充実	全員参加型の校内研究会の推進及び相互授業参観の実施 校外研修の促進と研修成果の共有化	3	

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

#### [4に関連するデータ]

- 学習過程に応じた共通実践事項は実践されていたか。
- 各教科の研究課題への取組はなされていたか。
- 諸検査データの分析と活用がなされていたか。
- 「授業のあいさつ」「聞く態度」「話し方」など、学習の約束を意識して学習できている。
- 自分の思いや考えを相手にしっかり伝え、話し合いながら学習を深めている。

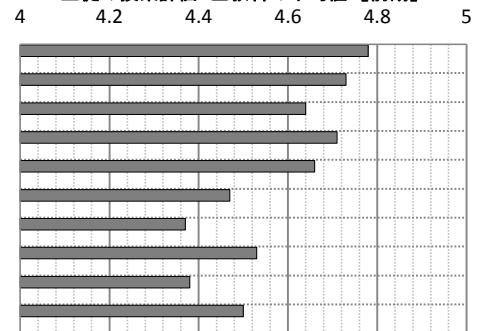
H29前期	年度
4.1	
3.8	
3.7	
3.6	
3.5	



#### ○生徒による授業評価

- 1 チャイム前学習を行っていましたか。
- 2 学習課題（めあて）は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 3 先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。
- 4 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 5 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 6 質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。
- 7 自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。
- 8 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 9 学習内容はわかりやすいですか。
- 10 あなたは、意欲的に授業に取り組んでいますか。

生徒の授業評価 全教科の平均値【前期】



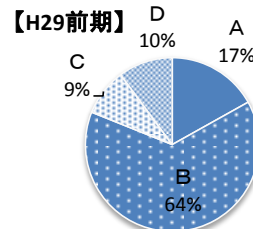
#### □学校での教科指導について、お子さんは

どのように言っていますか。

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというによく指導されている。
- C どちらかというあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

H29前期	年度
A 25	
B 95	
C 13	
D 15	

(単位:人)



#### [5関連するデータ]

- 全員参加型の校内研究会や相互授業参観は効果的か。
- 校外研修の促進と研修成果の共有化は図られたか。

H29前期	年度
4.4	
3.7	

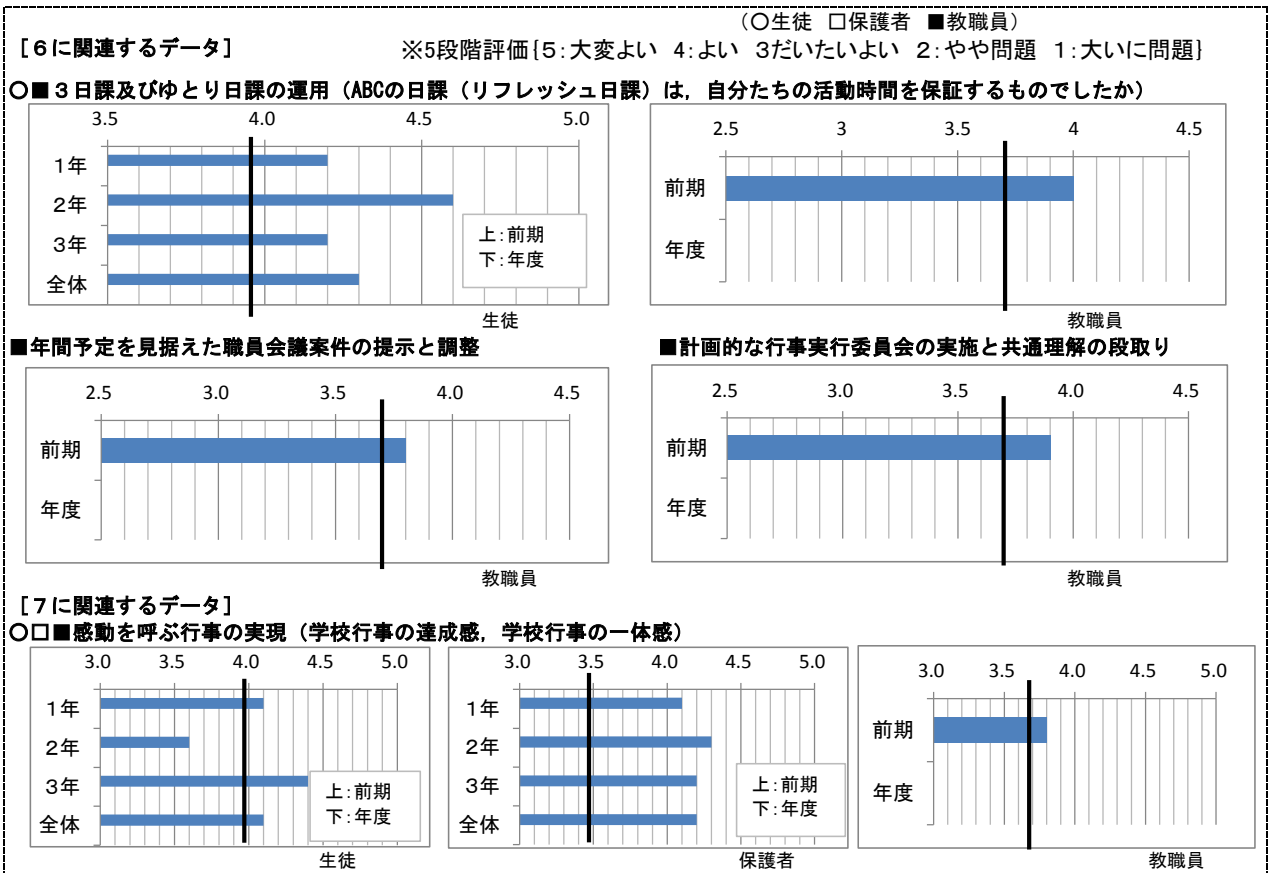


**ア 学校運営の状況**

**Ⅲ 特色ある教育活動**

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね良好	開校3年目を迎え、北陽中学校の特色が確立してきていると感じる。後期は、2年生がリーダーとして、行事等での達成感を高めてくれることを期待したい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○開校3年目となった。初めから「北陽中生」として入学した生徒のみが在籍し、3校統合のまとめの年と考えられる。昨年度も述べたが、今年度は「北陽中スタイル」を完成させる年度とするために、生徒と職員が一体となって取り組んでいる。慌ただしいのは変わらないが、下のアンケートの結果を見ると、生徒や保護者のアンケートはどの項目も昨年度と同じ、または向上し、職員のほうもほぼ昨年度なみの数値となっている。このことから、北陽中の形、というものが少しずつ具体化し、そのことが生徒・保護者・地域に定着してきたことが読み取れる。</p> <p>○前期までの取り組みと、アンケート結果から後期の課題として考えられるのが「職員会議案件や会議の精選」である。会議の段取りがうまくいかず、生徒の活動の見届けが甘くなる場面が見られた。生徒の豊かな活動を保証するためには、職員の見届けが欠かせない。先生方が生徒に寄り添い、よりよい学習や活動に取り組めるように、会議等の持ち方や、必要な情報を生徒や職員に適切に伝える工夫をしていきたい。</p> <p>○北陽中は2歳半となり、人間でいえば「立ち歩きをして行動範囲が広がる」時期か。地域や保護者の協力のおかげで「北陽中らしさ」が見えてきたように思うが、現状に満足せず、生徒たちの「立ち歩き」をサポートできるよう、環境づくりに努めたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(8) 生徒の活動を支える日課の工夫	2日課及び特別日課の運用	3	
	(9) 教育活動を支える見通しある提案	年間予定を見据えた職員会議案件の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(10) 感動を呼ぶ学校行事の実現	計画的な行事実行委員会の実施と共通理解の段取り	3	
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置付け)		



イ 生徒の状況

IV 主体的な学習態度・確かな学力

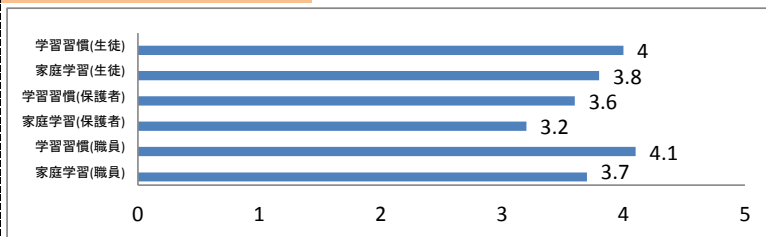
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒が主体的に学習に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期	おおむね良好	学習態度については、生徒と教員の評価のポイントがほぼ合致し、また、生徒の「授業の充実」に対する評価が非常に高く、学習にしっかりと向き合っていることが伺える。課題の克服に向けた後期の取組に期待したい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「主体的な学習態度」については、わずかだが、昨年度より高い評価となっている。学習についての個々のがんばりを認める「学習Goodさん」の紹介、家庭学習の手引きの更新と活用、定期テストに向けた家庭学習の意識付けとなる「挑戦カード」の改善と実施等、学習委員会を中心に生徒主体の活動を今後も継続したい。</p> <p>○「授業の充実」については、「話す・聞く」の基礎が身に付いてきて、個の考えをもととする意欲や生徒同士で発言をつなごうとする意識に高まりが見られ、生徒主体の授業に近付いてきている。しかし、全体での話し合いにおける聞き方が課題である。聞くことの必要性がもてる学び合いとなるような手立てを講じたい。また、確かな学力につながるように、研修部と連携し、まとめや振り返りの場面を充実させたい。</p> <p>○「生徒の力を高める諸活動」については、ドリル学習の内容を精選して実施した。集会活動での話し合い活動をさらに充実させるため、各部と連携したい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(11) 主体的学習態度の育成	各教科共通の「学習習慣項目」の提示と実践 家庭学習充実のための働きかけ(PUN、各教科の学習アドバイス、ノート展)	3	
9 確かな学力	(12) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート (50分ものさし、授業展開の工夫、まとめの充実) ハンドサインや話型を手がかりにした言語活動の充実	3	
	(13) 生徒の力を高める諸活動	ドリル学習、集会活動の実施		

※5段階評価 [5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

[8に関するデータ]

主体的学習態度の育成



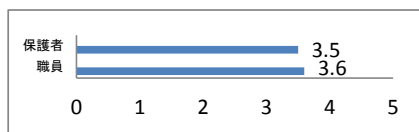
挑戦カード 6月実施



[9に関連するデータ]

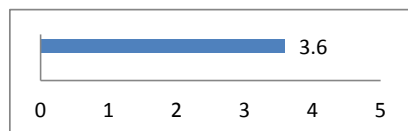
授業の充実

◆言語活動の充実



		前期	年度
生徒	発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。	4.7	
	質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。	4.5	
	自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。	4.4	

◆1単位時間の効果的なコーディネート (職員)



		前期	年度
生徒	学習課題(めあて)は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。	4.7	
	先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。	4.6	
	黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。	4.7	
	学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。	4.6	

生徒の力を高める諸活動

		前期	年度
生徒	ドリル学習で学習内容の定着を図ることができましたか。	4.3	
	フレンドリー集会では、お互いの良さを認めたり、自分の考えを積極的に話したりすることができましたか。	3.8	
職員	ドリル学習、集会活動は効果的に実施されたか。	3.7	

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活、望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のこもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期 おおむね 良好	おおむね 良好	教職員の評価が昨年度より上がり、生徒の生活の状況が昨年度より落ち着いていることがわかる。メディアコントロールの問題は、北陽中のみの課題ではないと感じるが、生徒の自主的な活動を促すなど、自己管理能力の向上を図ってほしい。
の自己評価の概要と学校	<p>○「あやめ運動」(元氣なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)に関する項目で、生徒は3.9教職員は3.8~3.9と4に近い評価だった。生徒は落ち着いた生活を送っており、あいさつも4月からだんだん元氣よくできるようになってきた。教職員間では、共通実践事項を確認したり、生徒指導上の問題が発生した場合には一つ一つ対応してきた。保護者は3.5とやや低い評価になってしまった。学校では立派なあいさつができていても、家庭ではなかなかできないのが現状である。まずは学校で、次に地域でもあいつの輪を広げていけるよう引き続き、励ましながら指導に当たりたい。</p> <p>○もっとも低い数値だったのが、生徒も保護者も3.0のメディアコントロールである。「夜9時以降のノーメディア」は就寝時刻や朝食など健全な生活習慣にもつながっていくので、折に触れて指導していきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活	(14) 集団生活のきまりの理解と遵守	「あやめ運動」の推進と自律心の育成 生徒指導共通実践事項の設定と実施 地域・保護者や近隣小学校と連携した安全指導の推進	3	
11 心身の健康の保持増進	(15) 健全な生活習慣の育成	保護者を巻き込んだメディアコントロール運動の定着 早寝、早起き、朝ごはんの啓発と体力向上の働きかけ	3	
12 教育相談の実践	(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上	「いつでも、どこでも」教育相談の推進 多様な手立てによる生徒理解 定期的な生徒を語る会と関係機関と連携した事例検討会の実施	4	

(○生徒 □保護者 ■教職員)

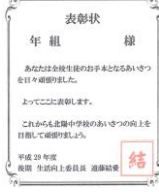
**【10に関連するデータ】** ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

**(14) 集団生活のきまりの理解と遵守**

○「あやめ運動」を意識した学校生活を送ることができましたか。  
 学校生活のきまりを、しっかり守ろうとしましたか。  
 「あやめ運動」(元氣なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもって)により、規律ある学校生活が実現していると思いますか。  
 小学校や地域と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いますか。

■「あさこえ運動」では、担当者による生徒の状況把握や指導が行われていたか。  
 生徒指導共通実践事項についての共通理解が図られ、全校体制で指導の徹底が図られていたか。  
 安全指導を推進する上で、小学校や地域と連携を図っていたか。

H29前期	H29年度
3.9	
4.2	
3.5	
3.7	
3.8	
3.9	
3.9	



項目	前期	年度
10		
11		
12		

**【11に関連するデータ】**

**(15) 健全な生活習慣の育成**

○あなたの「夜9時以降ノーメディア」の達成度は次のどれですか。(単位:人)

達成度	前期	後期
毎日	28	
ほとんど	26	
だいたい	54	
あまり	47	
全く	10	

○平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)

就寝時刻	前期	後期
~10時	21	
~11時	69	
~0時	45	
~1時	28	
1時以降	2	

○毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)

頻度	前期	後期
毎日	105	
ほとんど	37	
だいたい	10	
あまり	12	
全く	1	

家庭でのメディアコントロールの働きかけは適切ですか。  
 学校の取組(チェックカードなど)は、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識化に役立っていますか。  
 「メディアコントロール運動」の取組について、家庭の理解を得る働きかけが行われていたか。

H29前期	H29年度
3.0	
3.0	

**【12に関連するデータ】**

**(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上**

○悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いますか。  
 より良い学級、学年にしようと努力できましたか。  
 担任・副担任やSCによる教育相談が機を逃さずに行われていたか。  
 多様な手立てによる生徒理解が行われていたか。  
 生徒を語る会や事例検討会が確かな状況把握をもとに行われていたか。

H29前期	H29年度
4.0	
4.2	
4.0	
4.0	
3.9	



## イ 生徒の状況

### VI 思いやりの心,たくましい心

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
一步前に出て積極的に活動に取り組み,お互いの良さを認め合い,協力し合うことができる,豊かな人間性を育てている。	前期	良好	良好	生徒同士がお互いを認め合いながら協力し,自主的に行事に参加し,高め合おうとする意識が高い。様々な活動を通して,生徒は自分の成長を感じてきている。活動の全体の様子をしっかりと捉えながら,個々の育ちへの支援を継続してほしい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	○朝の会では,日直がスピーチしたりスピーチをしたことに対して質問をし合う場面を作っている。帰りの会では,生徒が誰かのために行った行為を紹介し合う「ちよいぼう」,今週特に頑張った生徒を決める「今週の輝く生徒」など,生徒が本音で語り合える場面を意図的に設定することができた。副担任制で学級を見ることによって,生徒の様子や提出物を細やかに見取ることができ個別に対応することができた。学級委員や実行委員,委員会をさらに活用して,生徒の自主性を育みたい。 ○学校行事(運動会)は,学級委員や実行委員,各担当リーダーが中心となって取り組み,各学級が一つにまとめることができた。限られた時間の中で,生徒自らが話し合って主体的に練習計画を立て,目標に向かったことがよかった。 ○「フレンドリー集会」のテーマを行事に関連づけたり必要感のあるテーマにすることができた。「あやめ運動」についても全校で話し合い,委員会活動などで目に見える形にしたことで,生徒達が自分たちで自分たちを律しようとする気持ちが育ちつつある。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を目指す学級・学年活動	(18) 本音で語り合える学級・学年づくり	TTによる学級経営の推進(副担任制度の導入と活用) 朝の会,帰りの会の工夫,話し合い活動の充実,学年集会の実施	4	
	(19) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」	リーダーを中心とした学級・学年集団の育成(リーダーシップ,フォロワーシップの育成)		
14新しい校史を刻む気概ある生徒会活動	(20) 成し遂げる気概にあふれた学校行事	生徒会による生徒主体の学校行事づくり 「あやめ運動」を通した新しい校風を創る日常活動の創意工夫	4	
	(21) 「あやめ運動」を通した創造的委員会活動の推進	定期集会での委員会発表の工夫		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[13]に関連するデータ ※5段階評価[5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題]

(18) 本音で語り合える学級・学年づくり

	H29前期	H29年度
○お互いの良さを認め合いながら,協力して学級づくりに励むことができましたか。	4.4	
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	3.9	
○担任と副担任は協力して,学級のために指導や支援をしてくれましたか	4.4	
■副担任制を活用した学級経営が図られていたか。	3.9	
■朝の会,帰りの会は,生徒の自主性を育てる工夫がされていたか。	3.6	

(19) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」

○フレンドリー集会では,人前で自分の考えを積極的に話すことができましたか。	3.8	
○よりよい学級,学年にしようと努力することができましたか。	4.2	
■リーダーを中心とした学級集団づくりの育成が図られていたか。	3.8	

[14]に関連するデータ]

(20) 成し遂げる気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.1	
□学校行事は,学級や学年が一つにまとまって活躍できる行事でしたか。(運動会,校外学習等)	4.2	
□保護者の皆さんと一緒に創り上げる学校行事になっていましたか。	3.6	
■生徒会による生徒主体の学校行事が図られていたか。	3.8	

(21) 「あやめ運動」を通した創造的委員会活動の推進

○よりよい学校を作ろうと,生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	3.7	
○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.1	
■「あやめ運動」を通した新しい校風をつくる日常活動の工夫が行われていたか。	3.6	

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

生徒	地域住民	小学生
146	162	90

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生



フレンドリー集会で真剣に話し合う生徒



生徒・地域が一つになった運動会



地域の方と小学生と一緒に防災活動

**ア 学校運営の状況**

**Ⅶ 保護者・地域との連携**

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	おおむね良好	防災活動に関しては、保育所や小学校との連携が図られ、地域の行事等に中学生が参加する姿が多く見られる。学校だよりや学年だよりを活用して、活動の具体的な様子をさらに発信し、保護者や地域からの理解を一層深めてほしい。
	年度		
校自 己改 善策の 概要と学	○4月当初に、三地区の行政協力員の会合に出席し、学校報配付の協力依頼をすることができた。学校報を全戸に配布する取組は保護者や生徒の評価も高いので、今後も継続していきたい。統合後のPTA活動の積極的な推進についての手立てを講じなければならないと思われる。 ○子どもハローワークの活用は昨年と同様に自分から希望する参加が多く見られるが、同じ人が何度も活用している一方、全く活用しない生徒もいるのが現状である。夏の防災活動には小学校の協力もあり、小中合同で活動する町内が多く見られた。夏の活動は、熱中症予防のために朝の早い時間帯に設定したい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	統合3校区を網羅する学校報配布システムの構築と運用	4	
16 大館盆地の教育力の活用	(23) PTA活動の活性化	PTA活動への積極的支援と働きかけ	3	
	(24) 職場体験・子どもハローワークの積極的活用	将来に対する夢や目標を育む実践		
	(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加と貢献活動	3地区の地域行事に対する参加計画の立案・積極的アピール 防災活動を柱とした地域ボランティアの推進		

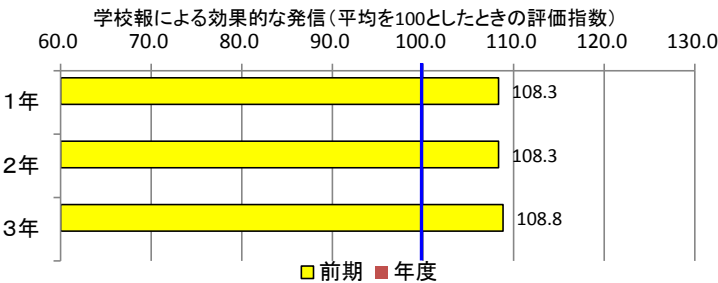
○生徒アンケート全24項目 □保護者アンケート全16項目 ■教職員アンケート全39項目

**[15に関連するデータ]**

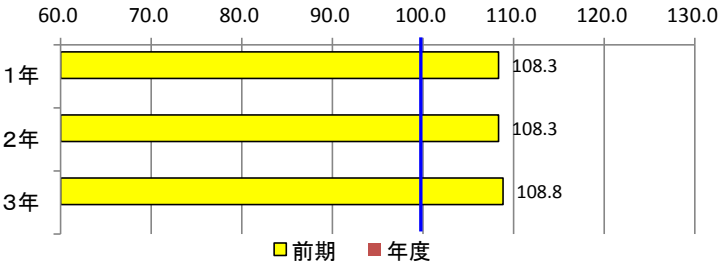
**(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信**

**【□保護者の評価】**

(評価平均 1年3.5 2年3.5 3年3.5)



おたより・報道で北陽中の良さ実感 (平均を100としたときの評価指数)

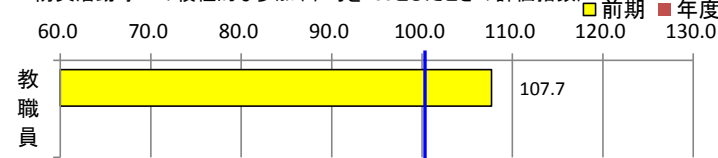


**[16に関連するデータ]**

**(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加**

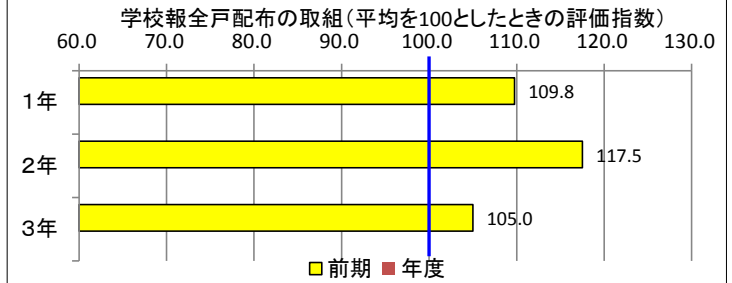
【■教職員の評価】(評価平均 3.9)

防災活動等への積極的な参加 (平均を100としたときの評価指数)



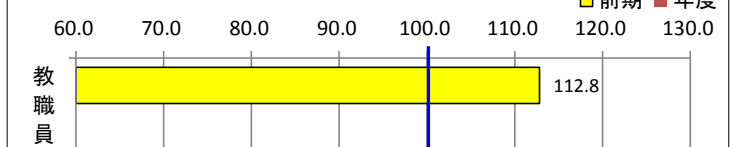
**【○生徒の評価】**

(評価平均 1年4.1 2年4.0 3年4.0)

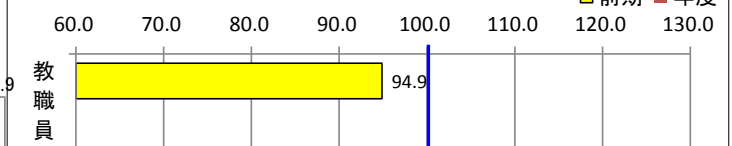


**【■教職員の評価】(評価平均 3.9)**

学校報による適切な発信 (平均を100としたときの評価指数)



子どもハローワークの活用 (平均を100としたときの評価指数)



○子どもハローワークの参加延べ人数 124人が参加(8月10日現在)

**【地域の方々が参加した諸行事と人数】**

防災会議(7/3)	AED講習会(8/2)	地域防災活動(8/6)
町内会長等 22名	生徒54名、保護者・地域 3名	地域・保護者等 162名



## 全 体 コ メ ン ト

平成29年9月22日（金）  
北陽中 2階会議室

### 総合コメント

○集会で生徒たちが積極的に発表しようとする姿が印象的だった。発表者を見守る視線、反応が温かく、お互いを認め合う雰囲気があった。

○「誇り」をもって学校生活を送るという校長先生の経営方針が浸透していると感じられた。

### 口頭による助言

○生徒のヒアリングから、「リーダーシップがとれるようになった。」「発表や自分の役割などに対して、一歩前へ出て活動できるようになった。」など自分の成長を実感する発言があった。また、様々な活動後には、友達と反省を言い合えるなどお互いを認め合いながら、高め合おうという意識も感じられた。

○生徒のヒアリングから、先生に聞きに行けない人もいたので、グループ内でお互いに教え合って、分からないことを解決していけばよいという意見があった。学び合いの充実を求める意識が感じられた。

○学校報については、生徒がいないという地区もあり、全戸配布は大変だと思うが、学校の取組や生徒の活動の様子を伝える手段としては効果的である。

○自転車通学に関しては、荷物が多く、カバンが重いため安全面が心配である。学校でも「置き勉」の許可などで対応を取っているようだが、引き続き安全面に配慮してほしい。

○開校1年目のように、保護者が呼びかけ合って子どもたちのために環境を整えていくなどの活動があればよいかもしれない。

北陽中学校 学校関係者評価委員

大坂谷 征志

佐藤 博昭

小坂 正昭

菅原 晶子

花岡 郁男